

災害時におけるトイレの使用確認手順

災害が発生すると、排水設備の損傷等により、トイレがいつも通りに使えないことがあります。地震災害をはじめとした災害時に備え、安心して利用するための手順を事前に確認しておきましょう。小・中学校をはじめとする避難所は、トイレの数が多いため、複数人で協力して点検を行いましょう！



0 災害発生・トイレの使用中止

災害が発生したら、避難所のトイレの使用を中止します。通常通り流すと、下水が逆流してくる可能性があるため、点検を行う必要があります。

使用確認ができるまでは、**携帯トイレを使用！**



1 トイレに被害がないか確認

便器や配管に損傷があると、水があふれてくる、臭気がする等、緊急で対応が必要な場合があります。

- 便器本体が破損していないか？
- 便器に接続している配管が外れていないか？
- 水が減っていないか？



携帯トイレを使用

2 排水系統に被害がないか確認

排水系統に損傷がないか目視で確認します。
…排水系統の仕組みと点検のポイントは裏面Aをチェック！

- 公共汚水ますやマンホールが損傷していないか？
- 敷地内の第一ますが損傷していないか？
- 床下の排水管が壊れていないか？（目視できる場合）



携帯トイレを使用

3 トイレに水を流して、正常に流れるか点検

トイレ本体や排水設備に損傷がなければ、水を流してみましよう。つまりの原因となるため、トイレットペーパーは流さないようにします。…詳しい点検方法は裏面Bをチェック！

断水している場合

断水していない場合

- バケツ洗浄をして、水があふれてこないか？
- 第一ますから水が流れているか？

- 通常通り流して、水があふれてこないか？
- 第一ますから水が流れているか？



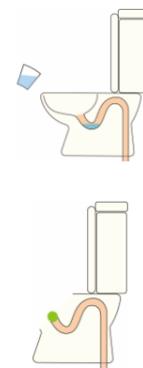
携帯トイレを使用

バケツ洗浄による
使用が可能

通常使用が可能

水道の復旧

💡 トイレの臭気対策



水が減って臭気がある場合は、水を補給してラップで密閉

配管がむき出しになっている場合は、袋にいれたタオルで配管をふさぐ

💡 液状化等で損傷した場合



液状化等により、汚水ますやマンホールが浮き上がっている、傾いている等損傷している場合は、設備修理が終わるまで携帯トイレを使用する。

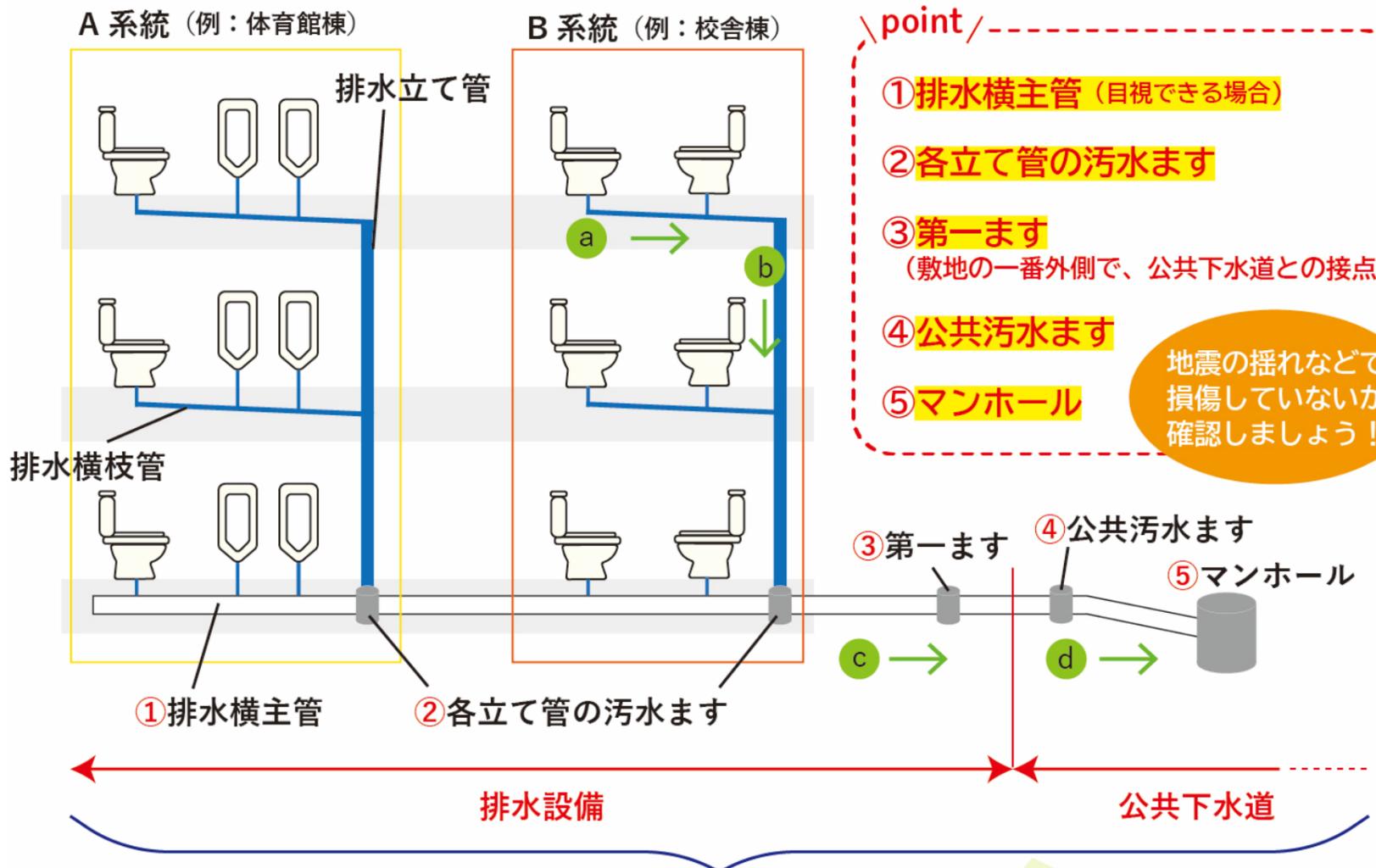
💡 水があふれてきたときは…



逆流をふせぐため、ビニール袋に水を入れた「水のう」をつくり、便器に設置する。

排水システムの仕組みと点検のポイント

トイレや手洗い場等から出る生活排水は、建物の排水管（排水設備）を通過して敷地外の公共下水道へ流れます。避難所（学校）の場合、トイレのある場所が複数あるため、複数の排水システムが独立しています。



水が流れるか点検する方法

排水系統

！ トイレに損傷がないか確認してから点検を行うこと

※役割を決めて、複数人で点検しましょう！

1. トイレに水を流して、あふれてこないか確認

断水している場合は、バケツを使用して水を流します。

※各階のトイレの被害を確認せずに上の階で水を流した場合、下の階で水があふれたり臭気がある場合があります。
バケツ洗浄を行う際も、必ず1階のトイレから行いましょう。

💡 バケツ洗浄の方法

- ①バケツ一杯程度（5～6L）を一気に流し込む
- ②におい防止のため3～4Lの水を貯める

※詰まりの原因となるため、トイレットペーパーは流さない（ゴミ箱を用意する）

※バケツ洗浄を円滑に行うため、プールや井戸水等の代替水源について確認しておきましょう

色水を流すと、水が流れているか分かりやすい！



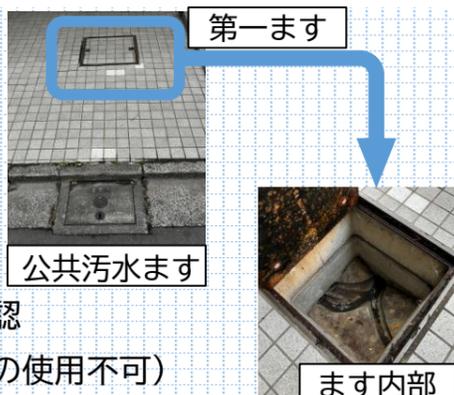
液状化等で損傷した汚水ます・マンホール

2. 第一ますに水が流れているか確認

- ①マイナドライバー等で、敷地内の第一ますを開ける

- ②トイレから水を流す（断水・停電時はバケツ洗浄）

- ③第一ますに水が流れているか確認（滞留している場合は、トイレの使用不可）



地域で協力して避難所の運営をしましょう

避難所は自宅で生活できなくなった方のための、地域住民の共同生活の場所です。

避難所運営に参加し、トイレの使用確認や掃除のルール等、協力して運営しましょう。

